

Corporate
Communication
Book **2019**

Heart&Technology

世界のYAMAMURAへ

心と技術を伝えたい

基本理念

コーポレート・メッセージ

商いの基は品質にあり

山村グループは、心をこめた製品とサービスをもって、快適な生活文化に寄与する。

事業は人なり

山村グループは、人間を尊重し、明るい経営を実現する。

革新なくして未来なし

山村グループは、常にイノベーションに挑戦し、燃える集団を目指す。

Heart & Technology

ハート&テクノロジー

人を信じる心を大切に「商いの心」

より良いものを生み出してゆく「匠の技」

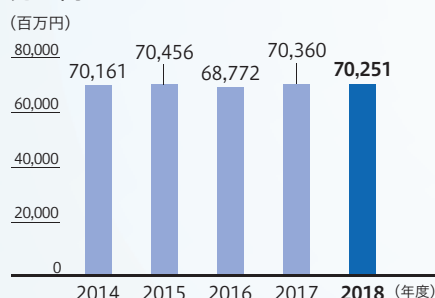
このコーポレート・メッセージは、はつらつとした山村グループのスピリットを社会に対して特徴づけたものです。

基本理念は、山村グループの考え方や行動を支えるもので、企業理念の中心となるものです。

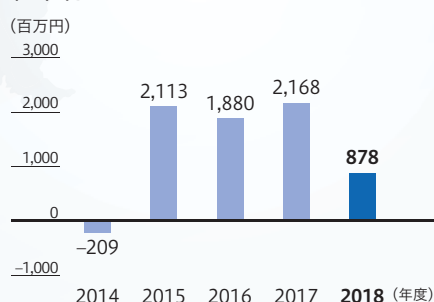
会社概要

商号 日本山村硝子株式会社
Nihon Yamamura Glass Co., Ltd.
創業 1914(大正3)年4月5日
資本金 140億円
株式上市 東証一部
事業内容 ガラスびん・プラスチック容器の製造・販売、粉末ガラス・ガラスペーストなどの製造・販売、機器およびプラント類の設計、製作、販売ならびに設置工事
従業員数 833名(単体) 2,637名(連結)
※2019年3月現在
決算日 3月31日

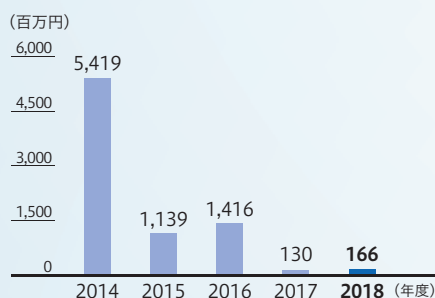
売上高



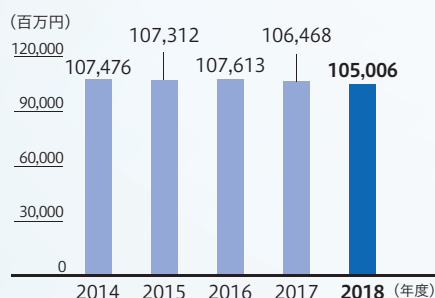
経常利益



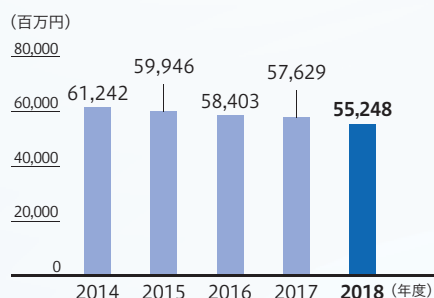
親会社株主に帰属する当期純利益



総資産



純資産



※グラフはすべて連結の財務データです

日本山村硝子の4つのカンパニーと研究開発センター

詳細は5-6ページ



ガラスびんカンパニー

国内ガラスびんシェア No.1



プラスチックカンパニー

世界に通用する高性能キャップ



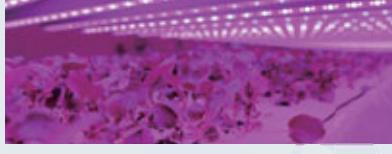
ニューガラスカンパニー

最先端のガラス材料を開発



エンジニアリングカンパニー

びんに関する総合システムを提供



研究開発センター

持続可能な次世代ビジネスを開拓

国内関係会社7社

詳細は7-8ページ

海外関係会社10社

詳細は9-10ページ

会社沿革

1897年 山村商店 六甲山麓砂採掘販売を經營
 1914年 兵庫県西宮市において山村製壔所として創業
 1955年 株式会社に改組し、山村硝子株式会社として発足
 1960年 プラスチック容器工場建設、製造開始
 機工部(現:エンジニアリングカンパニー)開設
 1962年 東京都に日硝株式会社(現:星硝株式会社)設立
 1967年 兵庫県西宮市に山村倉庫株式会社設立
 1970年 東京・大阪証券取引所 市場第一部上場
 1973年 リサイクル事業開始
 1983年 兵庫県西宮市に株式会社山村製壔所設立
 1987年 兵庫県西宮市にニューガラス研究所を新設
 1989年 広島硝子工業株式会社と合併
 1991年 フィリピンにサンミゲル山村アジア設立
 1998年 日本硝子株式会社と合併、
 日本山村硝子株式会社として発足

2004年 中国に展誠(蘇州)塑料製品有限公司設立
 2008年 山硝(上海)商貿有限公司を設立
 2009年 タイに山村インターナショナル・タイランド設立
 2010年 インドネシアにサンミゲル山村ウタマ・インドプラス設立
 山村フォトニクス株式会社子会社化
 2013年 秦皇島方圓包装玻璃有限公司(YGQ)子会社化
 2015年 山村ロジスティクス株式会社設立
 2016年 米国にYGQカリフォルニア設立
 2018年 株式会社トウチュウと合併で
 尼崎市に株式会社ワイティエフ設立
 中國砂輪企業股份有限公司(KINIK)と合併で
 台灣に台灣山村光學股份有限公司(YKO)設立

目次

メッセージ/目次 -----	1	国内ネットワーク -----	7	CSR Report 環境(E) -----	13
中期経営計画/ご挨拶 -----	3	海外ネットワーク -----	9	CSR Report 社会(S) -----	17
カンパニー紹介 -----	5	特集「太陽光発電の導入」 -----	11	CSR Report ガバナンス(G) -----	21

循環型社会の実現と、持続的成



中期経営計画（2017年4月～2020年3月）

世界のYAMAMURAへ —— 心と技術を伝えたい ——

〈策定のポイント〉

- 前2回(2010年4月～2014年3月、2014年4月～2017年3月)の中期経営計画を継承し、今回と合わせ計10年間の取り組みとしています。
- 持続的成長を維持するために、アジアそして世界に誇れる“YAMAMURA”ブランドを確立します。

全体戦略

グループ総合力の深化

グループ間の連携を強化することにより、
グループ内の経営資源を有効活用する

研究開発の推進

独創的な発想で新製品・新技術を創出する

事業戦略

パッケージング事業の収益力強化

安定した収益を確保できる体質への転換を進め、
成長市場におけるさらなる拡大のための経営基盤を確立する

ニューガラス事業の拡大

ニューガラスカンパニーと山村フォトニクスが強みと
相乗効果により、事業規模を拡大する

長を目指して

当社は1914年の創業以来、“循環型社会の実現に貢献する”精神を大切に、ガラスびん製造を事業の柱として着実な歩みを続け、現在では容器メーカーとして不動の地位を築き上げました。2014年には創業100周年を迎え、新しいステージをさらに実り多いものとするため、「世界のYAMAMURAへ一心と技術を伝えたい」のキーワードを掲げて戦略的に事業展開を行っております。

これまでガラスびん事業で培ってきたブランド力を基盤に、プラスチック容器、ニューガラス、そして将来の柱となる事業をグループ丸となって育て、確立してまいります。容器事業のみならず、さまざまな分野で海外の事業領域を拡大し、グローバル企業として飛躍すべく、グループ各社の総力を挙げて、事業構造と企業風土の改革を強力に推進してまいります。

引き続きリサイクルの優等生といわれるガラスびんの需要創造に尽力するとともに、日本の容器産業をリードする企業としての社会的責任を果たすべく、循環型社会に適した製品の開発を進めてまいります。

また、当社では持続可能な社会の実現のため、地域および環境との調和を重要な経営課題と認識し、環境問題への取り組みを続けております。2001年にはコミュニケーションツールとして環境報告書の発行を開始いたしました。その後、当社の掲げる理念および事業のご紹介から環境・CSR活動にいたるまで、幅広い内容を総合的にご覧いただけるものにと、CSR報告書、コーポレートコミュニケーションブックと発展させてまいりました。

今後もESGの観点から企業価値の向上に取り組み、社会から信頼され続ける企業グループを目指してまいります。

2019年6月

代表取締役 社長執行役員

山村幸治



高品質の製品・サービスを提供

ガラスビジネスの進化の過程で誕生した4つのカンパニーを通じて、
お客様に安心してお選びいただける高品質の製品・サービスを市場に提供しています。



ガラスびんカンパニー

業界シェアトップを誇るガラスびんカンパニーでは、1,000種類にも上る豊富な製品ラインアップと、創業以来蓄積してきた技術開発力、そして柔軟性に富んだ生産システムで、広範囲なニーズに的確・迅速に対応するとともに、環境に配慮した商品開発を最重視しています。

今後は、中国、アジアのガラスびん会社への技術支援による海外展開をさらに積極的に推進するとともに、ガラスびんの需要促進を図るため、高付加価値型の製品開発にも取り組んでいきます。

特長・特性

- 高品質保証体制を確立
- スピーディな新製品開発サポート



ガラスびんカンパニー播磨工場
(兵庫県)



ガラスびんカンパニー東京工場
(神奈川県)



ガラスびんカンパニー埼玉工場
(埼玉県)

ガラスびん国内シェア
(日本ガラスびん協会加盟6社内)

約 **39%**



プラスチックカンパニー

1960年の創業以来、半世紀にわたってプラスチック容器の新たな可能性にチャレンジしてきたプラスチックカンパニーでは、独自に各種ペットボトル用キャップを開発するなど、先進的な製品開発・技術開発を推進し、市場ニーズに柔軟かつ的確に対応できる一貫した生産体制を整えています。

今後は、さらに高性能な新製品を開発し、キャップメーカーとしての確固たる地位を維持するとともに、アジア地域での拡販を積極的に展開していきます。

特長・特性

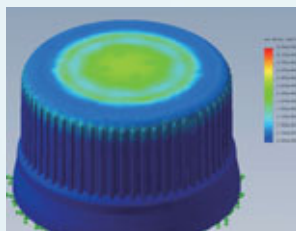
- 一貫した高速ラインによる安全品質と安定供給
- 独自開発の「TENキャップ」



プラスチックカンパニー関西プラント
(兵庫県)



プラスチックカンパニー宇都宮プラント
(栃木県)



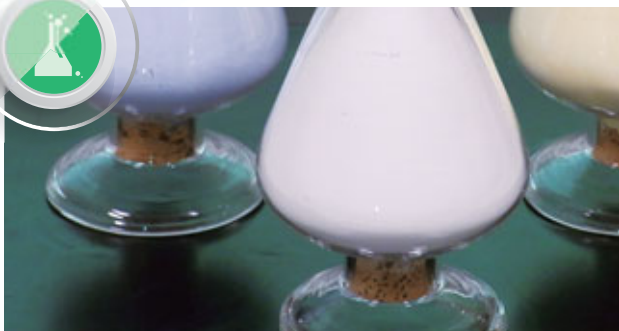
飲料用プラスチックキャップ
販売数量

約 **40** 億個



研究開発センター

2007年より研究開発センターは当社の既存事業とは異なる分野で新技術を開発・展開し続けています。技術開発の基本コンセプトは「安全・安心」「環境」「サステナブル」。既に生産販売を開始した植物工場をはじめとして今後も競争優位性のある研究開発を継続していきます。



ニューガラスカンパニー

ガラスびん事業で培った高度な技術をベースに、情報通信、環境エネルギー、エレクトロニクス、自動車、照明などの先端分野で、ニーズに合わせた新組成開発や組成改良、新用途の開発などを推進。研究開発・生産・販売の各部門が一体となって未来を創るガラス材料および無機系新素材を次々と生み出しています。

今後も新素材の研究開発を通して技術力を発揮し、社会に貢献するカンパニーを目指します。

特長・特性

- ガラスの無限の可能性を追求。市場ニーズにあった組成改良と新しい用途開発を行っています



ニューガラスカンパニー鳴尾浜プラント
(兵庫県)

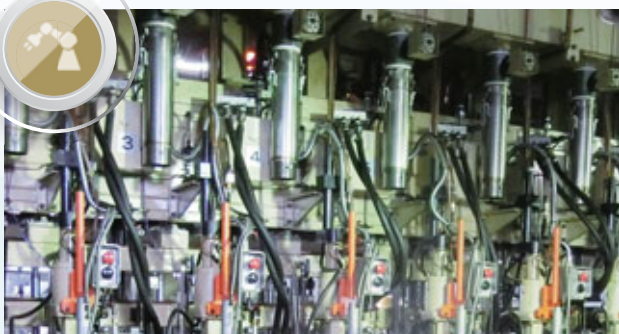


ニューガラスカンパニー尼崎プラント
(兵庫県)



環境関連製品売上比率

約 **30%**



エンジニアリングカンパニー

ビジネスコアとしてガラスびん成形機を持つエンジニアリングカンパニーは、ガラスびん製造プラントに必要な各種装置を取り扱っています。自社で開発した装置や今まで蓄積してきたノウハウを、お客様のご要望に合わせてカスタマイズしてお届けします。

また、環境負荷低減設備やその他一般設備も手掛けており、ガラスびん製造分野以外へと事業の幅を広げていきます。

特長・特性

- 国内唯一のガラスびん製造設備サプライヤー
- 工場運営に重点を置いた設備提案



エンジニアリングカンパニー
(兵庫県)



国内の製びん機シェア

約 **36%**

多彩な事業を日本から発信する

新規事業への取り組みなど、品質とともにお客様の信頼につながる体制の強化に注力し、山村グループとしての力を最大限に発揮しています。

国内関係会社

山村倉庫株式会社

主な事業内容：製造請負、輸送・保管、構内作業

1967年に創業。一昨年50周年を迎えました。2015年に山村グループ内業務に特化するために分社化、新生・山村倉庫として生まれ変わりました。

日本山村硝子のガラスびんカンパニー、プラスチックカンパニー、ニューガラスカンパニー、研究開発センターの各製造・保管・出荷の請負や日本山村硝子の関係会社からの業務請負などを行っており、山村グループをトータルサポートしています。



山村ロジスティクス株式会社

主な事業内容：食品物流サービス、保管、配送、警備・管財、人材派遣

2015年11月に山村倉庫より外販部門を承継する形で設立されました。長年にわたって蓄積したノウハウをさらにブラッシュアップして、荷主に対してロジスティクス改革を提案し、包括的にロジスティクスサービスを受託する3PL(サードパーティーロジスティクス)を展開しています。

当社経営理念である「明るく 元気に 楽しく そして面白く」をスローガンに、3PLのみならず、「庫内作業」「保管」「配送」「警備・管財」「人材派遣」と、あらゆる分野でお客様に満足いただける真のサービスを提供しています。



星硝株式会社

主な事業内容：ガラスびん、包装資材全般、セラーメイト商品の販売、機械器具の設計・製作・販売

1962年に創業してから2019年に58年目を迎えるに至りました。事業領域はガラスびんをはじめとした容器包装資材、セラーメイト商品の枠を超え、機械器具の設計・製作・販売や広口給水袋の取扱いなど多岐にわたっています。私たちの財産である、お客様と築き上げた信頼関係と知識やノウハウをもとに、新たな価値創造の提供に取り組んでいます。

今後も山村グループの強みを活かしながら、多岐にわたる新たなビジネスモデルの可能性に挑戦していきます。

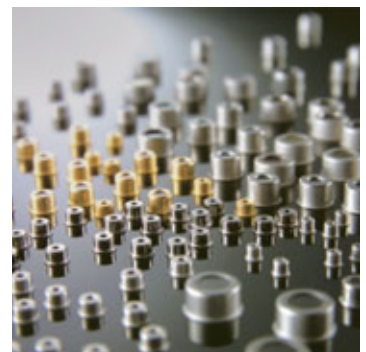


山村フォトニクス株式会社

主な事業内容：電気・電子機器用ガラス部品・LTCC基板材料の製造販売

1949年の創業以来、真空管用ガラス製品で培ったガラス材料技術および金属とガラスの溶着技術(Glass to Metal Seal)をベースに、光とエレクトロニクスの複合化製品を提供し続け、現在、ガラス事業、オプトエレクトロニクス関連事業、ガラスセラミックス事業の3分野で事業を展開しています。環境への取り組みとして、全工場においてISO14001を認証取得。廃棄物排出量の削減およびリサイクル、省資源、省エネ活動を推進し、環境配慮製品の開発や厳しい自主管理基準値を設けて環境負荷低減に取り組んでいます。

「光とエレクトロニクス」をキーワードとしたユニークな電子部品の開発・生産に挑戦し、製品創出を通じ持続可能な社会の実現に向け、先端の開発力と技術力で取り組んでいきます。



株式会社山村製壺所

主な事業内容：ガラスびん製造販売

オリジナルで多彩な色とかたちー 日本山村硝子の伝統を礎に30色以上のカラーバリエーション、個性豊かなかたち、小ロット生産体制を実現しています。そのような付加価値の高いガラスびんメーカーであることが私たちの強みです。

合言葉は「Amazing & Emotion」ー 新しいこと、困難なことに挑戦し、お客様に驚きや感動を与えたい。そういった決意を、この合言葉に込めています。

これからもお客様第一主義のもと、山村製壺所ならではの製品を提案し続けていきます。



日硝精機株式会社

主な事業内容：金型製造販売

1968年、ガラスびん金型製造の会社として神奈川県大和市に設立され、現在はガラスびん金型のほか、多様化するペットボトル用金型および付属品の設計製造、修理を主な業務としています。

月間生産能力は、主型150丁以上、口型1,500丁以上、ペットボトル型60丁以上を有しますが、常に過去最高の生産性を目指して、従業員一人ひとりが多能化を加速させ、組織にとられない全体最適な応援体制を築くことを心がけています。

また、近年は若手従業員の採用を進め、ベテランの匠の技を伝承する人材の育成を図るよう取り組んでいます。



株式会社ワイティエフ NEW

主な事業内容：機能性フィラーの製造・販売

2018年7月に株式会社トウチュウとの合併で設立されました。トウチュウ社が持つ珪砂精製技術と当社が持つ粉砕加工技術を融合し、珪砂を原料とする半導体向けフィラーをはじめとする機能性フィラーを製造、販売しています。

「価値創造&社会貢献」をスローガンに、すべてのお客様に新しい価値を創造し、社会の発展に貢献できるよう取り組んでいきます。



※ 写真は建設中の生産拠点の完成予想図

事業フィールドを世界に広げて

海外を拠点に事業領域の拡充を展開。

技術援助や共同開発にも積極的に取り組み、グローバル企業としての総合力を高めています。

海外関係会社

秦皇島方圓包装玻璃有限公司(YGQ)：中国

主な事業内容：ガラスびんの製造・販売

1958年設立のガラスびん会社。2013年7月、日本山村硝子の合弁子会社となり、2016年9月に日本山村硝子の独資となりました。日本で培った高度な技術を導入し、高品質のガラスびんを供給することにより、中国国内のみならず、米国、カナダ、オーストラリア、東南アジア、スペインなど、海外でも積極的にビジネスを展開しています。



展誠(蘇州)塑料製品有限公司：中国

主な事業内容：TENキャップ、軽量キャップの製造・販売

台湾のプラスチックメーカーと合弁で2004年に設立し、2009年に日本山村硝子の独資となりました。飲料用プラスチックキャップを生産しており、中国国内を中心に韓国、東南アジアなどに販売をしています。TENキャップの販売は順調であり、また商品開発にも力を入れたことで新製品が増えてきています。



山村ウタマ・インドプラス：インドネシア

主な事業内容：TENキャップ、軽量キャップの製造・販売

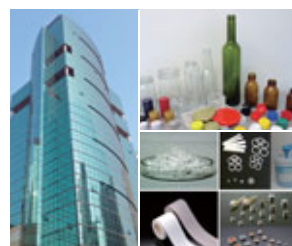
サンミゲルとの合弁会社であるサンミゲル山村パッケージング・インターナショナルとの合弁で、2010年に設立。2012年に日本山村硝子の独資となりました。飲料用プラスチックキャップを生産し、現地の日系企業、ローカル企業を中心に、東南アジア、中国へ販売をしています。今後はさらにローカルに根付いた商品開発に取り組んでいきます。



山硝(上海)商貿有限公司：中国

主な事業内容：ガラスびん、ペットボトル用キャップ、機械設備、太陽光発電設備、
ニューガラス・光通信用ガラス部品、その他包装資材一般の仕入販売

初の海外営業拠点として、2008年に上海市に設立。2012年には広州事務所を開設しました。2018年には山硝(香港)も設立し3国間貿易を円滑に行える体制が整いました。伸張している中国市場の中で、商社ならではのネットワークを活かし、日系企業・ローカル企業をはじめ、中国内外を問わず営業活動を行っています。



YGQ カリフォルニア：米国

主な事業内容：YGQの米国向けカスタマーサービス

2016年3月の設立以来、YGQから米国向けに輸出するガラスびんに対し、YGQと連携してお客様のご要望に迅速に応えています。また、日本山村硝子ガラスびんカンパニーとも共同し米国のワイン市場や日本酒市場において、拡販を目指し活動しています。



山村インターナショナル・タイランド：タイ

主な事業内容：ガラスびん、ペットボトル用キャップ、その他包装資材一般の仕入販売

タイ大手飲料メーカーであるオソサファとの合併で、2009年にタイ・バンコクに設立した商社です。タイローカル企業ならびに東南アジア市場の日系企業を中心に各種包装資材のみならず、充填・生産ノウハウも含めたワンストップサービスを提供しています。



台湾山村光學股份有限公司(YKO)：台湾

NEW

主な事業内容：光学ガラスレンズ製品の製造・販売、各種光学コーティングの受託加工

2018年に台湾の中国砂輪企業股份有限公司(KINIK社)との合併で設立されました。YKOではLEDやLD(レーザーダイオード)の光を集光、あるいは平行な光に調光するための非球面レンズ製品を取り扱っています。これら製品の用途としては、光通信ネットワーク、レーザープロジェクター、レーザープリンターなどがありますが、この中でも特に光通信ネットワークの用途は、高速・大容量・低遅延のニーズを受けて今後大きな成長が期待されています。



サンミゲル山村パッケージンググループ

サンミゲル山村アジア：フィリピン

主な事業内容：ガラスびん製造販売

フィリピンのコングロマリット(複合企業)サンミゲルコーポレーションと日本山村硝子の初の共同出資会社として1991年に設立され、ビールびん、酒類びん、食調びん、飲料びんなどさまざまなガラスびんの製造販売を行っています。製品はフィリピン国内だけでなく、欧米、オーストラリア、東南アジア、中東、アフリカ各国へ輸出され、着実にその領域を世界へ広げています。



サンミゲル山村パッケージング：フィリピン

サンミゲル山村パッケージング・インターナショナル：英領バージン諸島

主な事業内容：包装容器製造販売(フィリピン国内外)

サンミゲルコーポレーションと日本山村硝子の共同出資会社として2008年に設立。フィリピン国内外で、ガラスびん、ペットボトル、アルミ缶など、あらゆる包装容器資材を取扱い、新容器開発や充填事業、輸送業など包装にまつわるトータルサービスをお客様に提供しています。



海外パートナー企業 IPGR※メンバーグループ

- オローラ(オーストラリア)
- フェビーサ(メキシコ)
- ヴィーガンド(ドイツ)
- ベトロパック(スイス)
- ビドララ(スペイン)
- シセジャム(トルコ)
- ギャロ(米国)
- ブーハーエムハート(スイス)

海外との技術交流と研究開発

IPGR※に設立時から参画し、欧米諸国の各企業・研究機関との共同開発を進めています。

※国際ガラス研究開発パートナーシップ

循環型社会の実現を目指して 再生可能エネルギーの 活用を進め、 地球温暖化防止に貢献

2019年3月時点累計

太陽光発電

400

万kW/年超

2019年3月時点累計

CO₂削減量

2,000

t/年以上



関西本社
(兵庫県尼崎市)



ガラスびんカンパニー埼玉工場
(埼玉県熊谷市)

2014.3 屋根貸し

2,200 kW

2017.2 自家消費

270 kW



ニューガラスカンパニー尼崎プラント
(兵庫県尼崎市)

2018.3 自家消費

1,030 kW



プラスチックカンパニー関西プラント
(兵庫県加古郡播磨町)

2019.2 自家消費

100 kW

導入開始

2013.3 FIT売電

580 kW



プラスチックカンパニー宇都宮プラント
(栃木県宇都宮市)

プラスチックカンパニー
関西プラント

プラスチックカンパニー
宇都宮プラント

ガラスびんカンパニー
埼玉工場

関西本社
ニューガラスカンパニー
尼崎プラント



関西本社エントランスに設置した
太陽光発電モニター

全国4工場と関西本社で太陽光発電を導入し、CO₂を削減

当社は、環境方針に「循環型社会の実現に貢献」を掲げ、環境マネジメントシステム(ISO14001)のもと、事業活動におけるCO₂排出量削減に取り組んでいます。取り組みを発展させるため、2013年から全国の事業所で太陽光発電の導入を本格的に進めています。宇都宮プラント、埼玉工場、尼崎プラント、関西プラントと順次、屋上に太陽光パネルを設置。2019年2月に発電を始めた関西本社をあわせると出力規模は約4MWに上り、年間2,000t以上のCO₂排出量削減効果が生まれています。

特徴は、太陽光発電のさまざまなスキームに挑戦してきたことです。最初の宇都宮プラントでは、再生可能エネルギーを普及させるために始まったFIT(固定買取制度)を活用して全量を電力会社に売電しています。同じくFITを活用した埼玉工場以降は、太陽光発電事業で多くの実績を持つオリックス株式会社様と連携しています。大規模な埼玉工場は屋根貸しの方式を採用、また、尼崎・関西プラントは国の補助金制度を活用した

自家消費型とし、動力や空調などの消費電力の約10%を太陽光発電で賄っています。関西本社では同じく自家消費型としたことに加え、非常用電源としても使えるようにするなど、BCP(事業継続計画)の観点も考慮しました。

今後も、発電量の実績管理やパネルの保守・清掃などによって最大の発電効率を長く維持できるように努めていくとともに、蓄エネにも挑戦していきたいと思えます。



環境室長 辻良太(左)

環境室 山川浩司(右)

事業パートナーのオリックス様からの声

「創エネ」に加え「蓄エネ」でも連携しともに脱炭素社会をリードしていきたい

当社では、機器の選定や適切な調達方法、補助金制度申請のアドバイスなどを通して、お客様の太陽光発電事業を支援しています。日本山村硝子様とは、埼玉工場における屋根借り方式による太陽光発電設備の設置および運用をきっかけに、ともに再生可能エネルギーの普及に取り組んでいます。当社にて、目指すべき環境目標を達成できる形を徹底的に検証し提案させていただいた結果、日本山村硝子様は、場所や時期に応じてあらゆるスキームを柔軟に採用され、現在、自家消費型では1.4MWとトップクラスの実績を誇っていらっしゃいます。今後は「創エネ」だけでなく「蓄エネ」にもともに挑戦し、脱炭素社会をリードしていきたいと考えています。



オリックス株式会社
大阪事業法人営業第一部

脇坂 美緒様

CSR Report

— 日本山村硝子のCSR

E 環境
nvironment

S 社会
ocial

G ガバナンス
overnance

編集方針

当社のCSR活動をお客様、株主、取引先、地域社会の皆様にご理解いただくこと、当社の全従業員のCSRに対する意識向上を図る目的で発行しました。

対象期間

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)
ただし、一部記事によっては、上記以前からの継続事項も含んでいます。

対象組織

本報告書は、日本山村硝子株式会社を対象にしていますが、一部記事においては、山村グループの記事も含んでいます。

発行時期

2019年6月(次回発行は、2020年6月を予定しています。)

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
ISO26000(社会的責任に関する手引き)

当報告書では2018年度の活動を中心に掲載しています。そのほかの情報については、当社ウェブサイト(<http://www.yamamura.co.jp/index.html>)をご覧ください。

日本山村硝子株式会社 CSR広報部事務局
E-mail:csr_report@yamamura.co.jp

E 環境
nvironment

2018年度の環境への取り組み

当社は、環境への取り組みを全社共通の課題とし、ISO14001の認証登録を受けた環境マネジメントシステムの運用により、環境汚染防止を目的とした、環境関連法規および社会的約束の順守、継続的な改善に取り組んでいます。

法規および社会的約束の順守については、要求事項をリストアップし定期的な評価を実施することで徹底に努めておりますが、認識の誤りや不慮のトラブルなどがあるため、不適合を完全になくしてはなりません。早期の情報伝達と是正、再発防止、同様のトラブル防止を目的とした不適合取扱いフローを定め、不適合の発生を限りなくゼロに近づけるようさらなる充実を目指しています。

継続的改善はカンパニーごとにエネルギー関係、技術開発、廃棄物削減、地域環境活動に関する環境目標を掲げ、PDCAサイクルを回すことにより取り組んでいます。近年は、一律での数値目標設定や、装置のスペックなどをあまり考慮していない目標設定を見直しています。経営計画と整合性があり、努力した結果を正しく評価できる目標に見直し、モチベーション維持向上にも重点を置いています。

組織のレベルアップとして、マネジメントシステム組織内部のチェック機能強化と、システムの浸透を目的とした内部監査員有資格者増員を計画しており、直近2年間で50名以上増員できました。

新たな戦略・目標など

現在、社会が直面する環境問題、「地球温暖化」と「プラスチックごみ問題」は、昨年ここで掲げたエネルギーの削減対策と廃棄物の削減対策が必須であることを示しています。大量にエネルギーを消費して容器を製造する当社に密接に係わる問題です。

当社の環境マネジメントシステム(EMS)は全社統合して8年を経過し、充実に努めてきました。しかし、先のEMS維持審査で全社組織としての効果発揮について言及があり、まだまだ改善の余地があると認識を改めたところです。

Topics

NO_x低減技術 NEDO戦略的省エネルギー技術革新プログラムに採択

ガラス製造時の燃焼排ガスに含まれる窒素酸化物(NO_x)を低減し、溶解炉の燃焼空気比調整によるエネルギー消費の削減を図ることを目的として、2011年から大阪府立大学と共同でNO_x低減技術開発を進めてきました。2013年に播磨工場の「湿式」排ガス処理設備のパイロットスケールテストで成果を上げ、2014年からは東京工場や埼玉工場で採用している「乾式」排ガス処理設備においても同様に開発を続けてきました。

この技術を「乾式」で応用するには課題が多くあり一進一退を繰り返した時もありましたが、一つひとつ解決し、開発を進めてきました。2018年にはNEDO戦略的省エネルギー技術革新プログラム※に採択され、開発資金の助成を受け、生産規模での実証試験を行っています。また、本技術の成果は、国内外の学会等で積極的に発表を行っています。

今後は、実証試験においてさらなる成果を得ることを目指し、実用化・事業化に向けた開発に取り組んでいきます。

※国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が実施する、省エネルギー型経済社会の構築および産業競争力の強化に寄与することを目的とした事業化支援プログラム。



実証試験設備



学会発表の様子

「循環型社会の実現に貢献」という最大かつ不変の目標に向けて、グループ総合力で対応していくことが新たな戦略となると考えています。

目標に向けての取り組み

環境マネジメントシステムの運用をベースとした日常の取り組みは継続していきますが、将来に向けて日常の延長線上にない施策にも取り組んでいく必要があります。

エネルギーの削減対策は2018年12月1日に改正施行された省エネ法に対応していくことが新たな取り組みのポイントになると考えています。この法改正は資源エネルギー庁が2013年度を基準年として2030年度に対策前比で原油換算5,030万kℓの削減を打ち出しているものの、省エネ投資が進んでいかないことや、企業単体での取り組みでは限界に達しつつあるなどの背景から、法を改正し徹底した省エネを推進していくというものです。

廃棄物削減対策でプラスチックごみ問題はさまざまなところで議論されています。当社では、リサイクルの

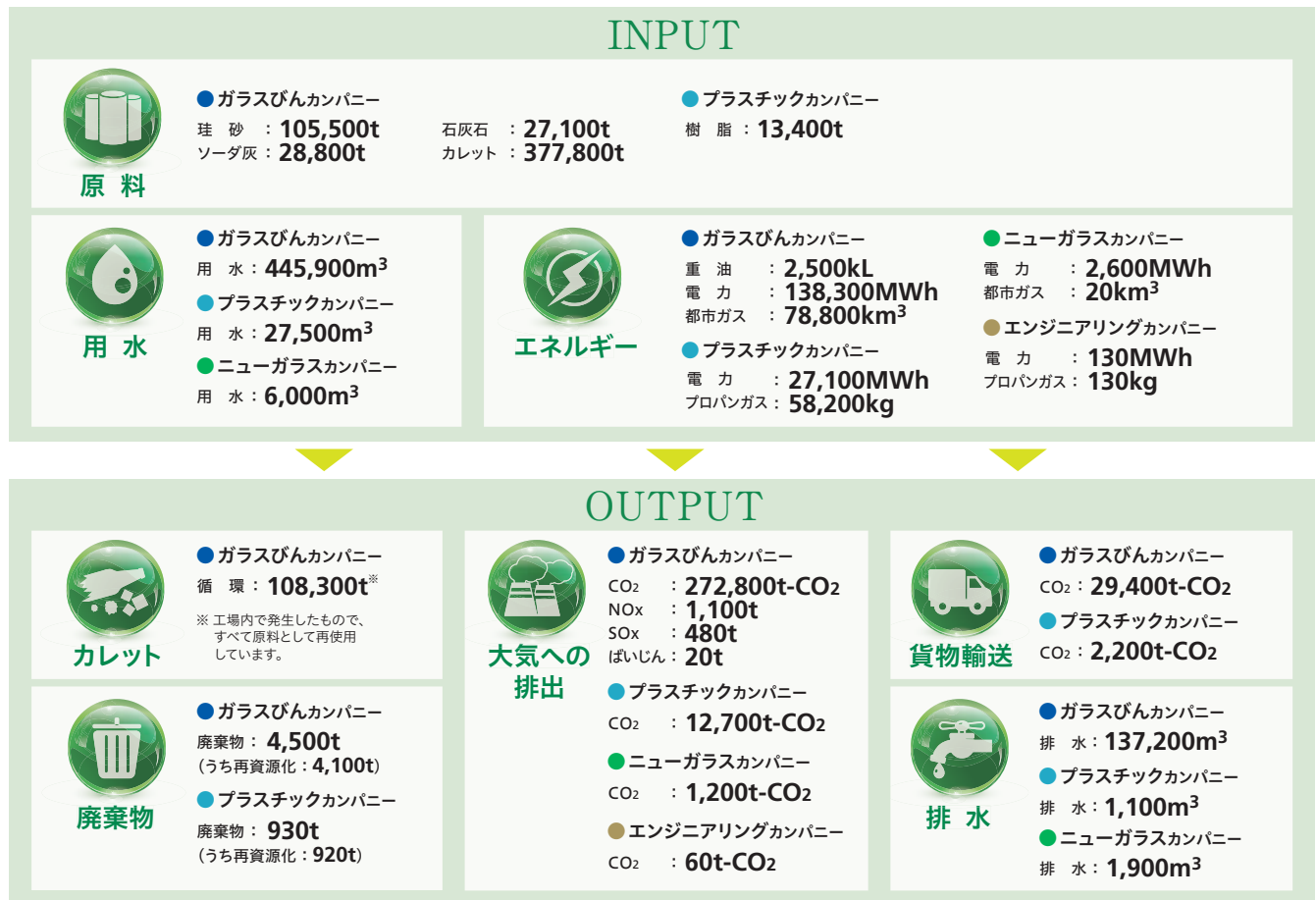
優等生とされるガラスびんをコアビジネスとする一方でプラスチックキャップの製造も行っており、今後進むべき方向はグループ全体で考えていく問題です。

2019年度は、環境マネジメントシステムを見直し、グループ総合力で対応していくという戦略を実行していきます。



環境室 室長
辻良太

環境負荷の全体像



環境保全活動

フロン一元管理システムの導入

フロンガスによるオゾン層の破壊、地球温暖化といった環境への影響が明らかになり、2015年4月にフロン排出抑制法が制定されました。当社でも空調や冷蔵など冷媒としてフロン類が充填された機器を使用していますが、各事業所独自の方法で管理してきました。

しかし、社会的にフロン類漏えいの問題が深刻化してきたため、フロン管理システムを導入し、一元管理をすることとしました。

今後も法定点検をもれなく実施し、機器の管理を確実に進めていきます。

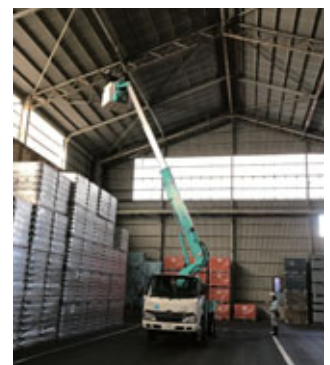


法定点検の様子とフロン管理システム

PCB廃棄物の適正処理

PCB高濃度機器の処理を順次進め、2018年度はコンデンサ1台、照明安定器30台の処理を実施しました。また、一部が未確認のままだった播磨物流センターの倉庫照明の全数調査を実施、PCB含有物がないことを確認しました。これで2021年3月末に迫った期限内の処理に目途が立ちました。

今後は低濃度機器(その疑い機器)の処理に重点を移していくことになります。期限の2027年3月末まではまだ時間がありますが、24時間稼働の設備も多く存在するため、計画的に進めていきます。



高濃度 PCB 含有調査の様子

UVインク系印刷機へ更新

海外関係会社 展誠(蘇州)塑料製品有限公司では、主にプラスチックキャップを製造しており、キャップ印刷機をこれまでの有機溶剤系から環境負荷の少ないUVインク系に更新しました。有機溶剤は揮発性有機化合物(VOC)として、光化学スモッグの原因にもなり、中国環境省から削減指示が経済界に出されていたものです。

今回の更新により現場作業での有機溶剤のにおいがなくなり、従業員の作業環境が大幅に改善されました。今後も法令を順守し、さらなる環境改善に努めていきます。



環境負荷の少ないUVインク系印刷機

「トリス〈クラシック〉700mlびん」を軽量化

サントリースピリッツ様のウィスキー「トリス〈クラシック〉」が2018年12月にリニューアルされ、当社の軽量びんをご採用いただきました。

サントリースピリッツ 梓の森工場様の設備投資を抑えるために高さ・胴径は維持しつつ、ボトル対角に丸みをつけて軽量化を図りました。さらに“1946”の刻印を追加することで、1946年から続くトリスブランドの歴史を伝える意匠とし、より親しみやすく愛着を感じるデザインに変更しました。

その他にも、ロングキャップからショートハイトキャップへの変更や、底部形状の変更など、さまざまな工夫により20%の軽量化を実現しました。



トリス〈クラシック〉

Topics

ガラスびん3工場の環境活動

東京工場

FCFL(燃料電池フォークリフト)のモニタリング協力

2018年11月から12月の間、FCFLの試験導入に協力しました。FCFLは風力発電による蓄電で製造された水素を使用しており、従来に比べ排出するCO₂を削減できます。水素の充填時間は5分程度と短く、稼働中は排気ガスを排出しません。

水素充電設備の設置など課題もありますが、FCFL導入に関して、有意義な実証期間になりました。



簡易型水素充填車での充填

埼玉工場

定期的な清掃活動を実施

最寄り駅であるJR籠原(かごはら)駅の清掃活動を毎年2回実施しています。当駅を利用する企業が輪番制で担当しているもので、落ち葉やたばこの吸い殻の回収、雑草の刈取りなどを行っています。また、工場外周の清掃活動も毎月、部署単位で順番に行っています。清掃に参加することで美化意識が高まり、工場内も美しくなるのではと期待しています。



JR籠原駅の清掃活動

播磨工場

空きびん回収キャンペーン

ガラスびんの製造において、空きびんを砕いて再生原料となるカレットを集めるため、空きびん回収推進運動に積極的に取り組んでいます。

一人ひとりのリサイクル意識を高め、さらなるガラスびんの利用拡大につながればと考えています。

2018年度は、約6トンの空きびんを回収できました。



播磨工場に設置した空きびん回収場所

2018年度の社会への取り組み

当社は創業以来、循環型社会の実現と持続的成長を目指して事業に取り組んできました。さまざまなステークホルダーの期待に応えるべく、社会の発展に寄与する活動に取り組んでいます。昨今は社会環境が大きく変化しており、ステークホルダーから求められる期待も変化しています。その変化に対応していかなければ、当社は持続的成長を果たすことはできないと考えています。

当社は基本理念において、“商いの基は品質にあり” “事業は人なり” “革新なくして未来なし”を掲げています。お客様へ安全・安心な製品を提供するために品質向上に取り組み、要求される製品・サービスを実現するさらなる技術開発を進めています。そして、「人材基盤の確立」を経営方針とし、世界で活躍できる人材の育成、多様な人材の雇用の促進、多様な価値観が発揮できる組織づくりに取り組んでいます。さまざまな職場で働く従業員の安全と健康を確保するために、安全衛生活動や働き方改革を進めています。さらに、地域社会への貢献も重要な課題として認識しており、環境負荷の低減、地域環境活動への参画、次世代を担うこどもたちの成長に寄与できる活動に取り組んでいます。これらの基本理念に沿った活動を通じて、現在の、そして将来の社会的課題の解決に貢献し、持続可能な循環型社会が実現できるよう活動を進めています。



新たな戦略・目標など

国連は2015年にSDGs(持続可能な開発目標)を採択しました。これには17のゴールと169のターゲットが掲げられ、すべての国の目標となっており、世界各国の組織・団体・企業がこの目標達成に向けて活動しています。「世界のYAMAMURAへ一心と技術を伝えたい」という中期経営計画のスローガンを掲げている当社としても、SDGsの達成に寄与するために、これまで同様に株主・お客様・取引先・従業員・地域社会といったさまざまなステークホルダーの期待に応える活動に取り組んでいきます。

目標に向けての取り組み

- 安全・安心な製品をお客様へ提供するためのさらなる品質向上
- 要求される製品・サービスを実現する高度な技術開発
- 世界で活躍できる多様な人材の育成
- コンプライアンス体制のさらなる強化
- コーポレート・ガバナンスのさらなる実効性向上
- 地域の発展に貢献できる活動に参画

お客様のための取り組み

品質のための取り組み

ガラスびん、プラスチック、ニューガラスの3カンパニーでは、品質マネジメントシステム(QMS)ISO9001の認証を取得しています。ガラスびんカンパニーとプラスチックカンパニーは、2018年度にISO9001:2015への規格改正に対応して移行を行いました。

品質保証の取り組みとしては従来から実施している内部監査に加え、カンパニーのトップによる品質監査なども実施。管理の仕組みを定着させ、トップマネジメントによる品質改善の意識が浸透してきました。さらなる活動の質の向上を目指していきます。

Topics

第15回ガラスびんアワード2018を受賞

日本コカ・コーラ株式会社様の「い・ろ・は・す グラススパークリングウォーター」が最優秀賞を受賞

ガラスびんに描かれた波紋のレリーフがとても美しい。手に持ってもオシャレでテーブルに置いても映える。ペットボトルのイメージが強いブランドながら、炭酸水に耐えうる強度を持たせたガラスびんで中味を美味しそうに見せる工夫が施された商品という点が評価され、最優秀賞に選出されました。



株式会社 明治屋様の「マイシロップ」が日本ガラスびん協会特別賞を受賞

かき氷のスタイルが進化するなか、発売以来90年にわたり、ガラスびん入りの定番かき氷シロップとして愛され続けている「マイシロップ」。カラフルな中味を際立たせる透明感と優れた保存性を兼ね備えたガラスびんは、「マイシロップ」の象徴ともいべき存在になっています。長きにわたるガラスびんの使用が評価され、日本ガラスびん協会特別賞に選出されました。



食品安全のための取り組み

お客様へ安全・安心な製品を提供するため、ガラスびん、プラスチックの2カンパニーでは、カンパニーごとの「食品安全マニュアル」と各工場の「食品安全衛生管理規定」を制定し、食品安全マネジメントシステムの国際規格であるFSSC22000(ISO22000)の認証を取得しています。2018年度はFSSC22000(第4.1版)への規格改正に対応して移行しました。工場では食品安全チームを中心にしたパトロール、各工程のハザード分析の実施、前提条件プログラムの管理や衛生管理規範による従業員教育により、品質・衛生管理の改善活動を継続的に実施しています。



食品安全パトロールの一環として手洗い立哨の様子

社会貢献活動

尼崎に森を作る活動への参加

当社は、尼崎21世紀の森づくり協議会が実施する「尼崎21世紀の森づくり活動」に2013年から参画しています。

兵庫県尼崎市の「尼崎の森中央緑地」にある、当社が担当する200m²の土地を「日本山村硝子の森」と名付け、従業員やその家族が植樹や除草などの活動にボランティアで取り組んでいます。

「尼崎の森中央緑地」では、他にも森づくり活動を宣伝するさまざまなイベントを開催しており、当社は「エコキッズメッセ」や「グリーンフェスタ」に参画しています。各イベントでは多くのこどもたちに、びんの工作を楽しんでもらいながら、リサイクルの大切さやびんの魅力について伝えています。



除草活動の様子

夏休みおもしろ教室に参加

2018年8月に兵庫県の播磨町役場で開催された「夏休みおもしろ教室」に出展しました。播磨工場の紹介やガラスびんの製造方法、3Rの大切さについて説明した後、当社のびんを使ったハーバリウム作りを楽しんでいただきました。

参加した子どもたちや保護者からは、「簡単で楽しくできて良かった」と好評でした。



完成したハーバリウムを持つ子どもたち

こどもミュージアムプロジェクトに参画

山村ロジスティクスは、(株)宮田運輸様が取り組む「こどもミュージアムプロジェクト」に参画。交通安全を願い、小学1年生154名が描いた絵を5台のトラックの左右側面と後部にラッピングしました。

2019年3月にはラッピングトラックのお披露目会を行い、絵を描いた子どもたちからは、「ラッピングトラックを見た人が安全に気を付けて運転してくれると嬉しいです」といったお礼の言葉をいただきました。順次ラッピングトラックを増やしていく計画です。



配送に出発するトラックを見送る子どもたち

自分が描いた絵を探す子どもたち

従業員のための取り組み

人材育成の取り組み

当社が持続的発展をしていくためには、従業員一丸となり、世界を視野にイノベーションを創出していかなければなりません。これらを実現するのは、「人=社員」であり、人材基盤をより強固なものにしていくことが求められています。そのために、従業員一人ひとりが自発的に行動する自律型・自立型人材へ変革していくことを目指して、「研修・教育基本方針」に基づいた体系的かつ継続的な研修・教育を実施しています。

その一つとして、技能スキルの伝承と専門性向上のため、国家公的資格取得を支援しています。

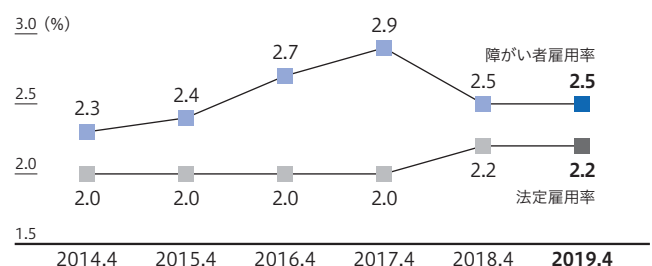
2018年度は、新たに一般計量士1名、水質関係第1種公害防止管理者1名、危険物取扱者2名(甲種1名、乙種1名)が合格しました。

多様な人材の雇用・活躍を促進

多様な人材の雇用を促進し、多様な価値観を發揮できる組織づくりに取り組んでいます。障がい者雇用率は2.5%と、法定雇用率2.2%(2018年度)を上回っています。また、高年齢者の技術・技能を活かし、グループ内での人材の有効活用を図るため、2016年度に労働条件の改善を図りました。2018年度は定年退職者14名中10名が継続雇用制度を利用し、後進の指導などキャリアを活かして活躍しています。

2018年度は、ダイバーシティへの取り組みの一環として、外国人2名を採用しました。今後も多様な人材の積極的な雇用、活躍を推進していきます。

障がい者雇用率



労働安全衛生の取り組み

従業員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境を形成し、円滑に作業を遂行することで生産性の向上を図ることを目的に「安全衛生管理規程」を定め、安全衛生活動を推進しています。

各事業場では、毎月、協力会社も含めて安全衛生委員会を開催し、リスクアセスメント活動や安全活動の基本である、KYT(危険予知)能力の向上に取り組んでいます。また、年1回、全社の安全衛生担当者が集合する全社安全衛生委員会を開催し、全社での災害状況の把握や対策など、意見交換を実施しています。

2018年度は、全社的に通勤災害(二輪車での事故)が増加したため、尼崎南警察署交通課の鍋谷警部補に来ていただき、二輪車における通勤災害防止についての講話を実施しました。



全社安全衛生委員会 交通講話の様子

人権への取り組み

1980年に発足した同和問題研修推進委員会を、1990年に人権啓発推進委員会に改称し、同委員会を主体とした人権啓発に取り組んでいます。人権に関する相談について従業員は内部通報制度を利用できます。また、各事業所にハラスメント相談員を配置して相談に対応しています。

さらに、当社は「兵庫人権啓発企業連絡会」および「東京人権啓発企業連絡会」に加盟し、各連絡会や団体が主催する研修会や各種行事に、人権担当者をはじめ、従業員も参加して人権に対する意識を高めています。

2018年度の主な取り組み

- 社外から講師を招いて講演会を実施
テーマ:アサーティブコミュニケーション
講師:角井 孝次(株式会社きらめき労働オフィス代表)
- 社内研修の実施
内容:同和問題、LGBT、差別事件の報告など
- 人権啓発標語の募集
2018年度応募数:1,745作品(グループ各社1,187名)



「アサーティブコミュニケーション」の講演会

● 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画 (期間:2016年4月1日~2021年3月31日までの5年間)

課題	目標	2019年4月1日現在
管理職(課長クラス以上)になりうる女性が育っていない。	管理職の女性を1人以上登用する。	女性管理職4名を登用。
監督職(係長・主任クラス)に占める女性の割合が低い。	監督職に占める女性の割合を現行4%から6%にする。	6.7%

● 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画 (期間:2018年4月1日から2021年3月31日までの3年間)

目標
育児支援制度を継続実施するとともに、働き方改革を実行する。[女性:育児休業取得率80%以上 男性:育児参画拡充]
適正な時間外労働時間を維持する。[月1人あたり平均5.0時間]
計画的な年次有給休暇の取得を促進する。[60%以上]

コーポレート・ガバナンスについて

ガバナンスについて

当社は、コーポレート・ガバナンスを経営上の重要課題と位置づけています。

企業理念などに基づき、経営の透明性・公正性を確保した上で、迅速・果断な意思決定を行うことで、持続的な成長および中長期的な企業価値向上を図るとともに、株主をはじめお客様・取引先・従業員などの各ステークホルダーの信頼に応える経営を行っていくことを、基本的な考え方としています。

取締役会の監督機能のさらなる向上、審議の一層の充実および経営の意思決定の迅速化を図り、コーポレート・ガバナンスの実効性をより高めていきます。

会社の機関、業務執行、監督など

当社では取締役会を、経営の基本方針および法令で定められた事項やその他経営に関する重要事項を決定するとともに業務執行を監督する機関と位置づけています。取締役会を毎月1回開催し、必要に応じて臨時取締役会を開催しています。業務執行については執行役員制度を導入の上、適正な権限委譲のもとで執行責任を明確化しています。経営会議では業務執行に係る重要案件を審議・決定し、グループ社長会では、重要な経営方針等を共有し、相互牽

制を図っています。また、当社は監査等委員会を設置しており、監査等委員は取締役会をはじめ重要な会議へ適宜出席し、取締役・執行役員の業務執行を監視しています。

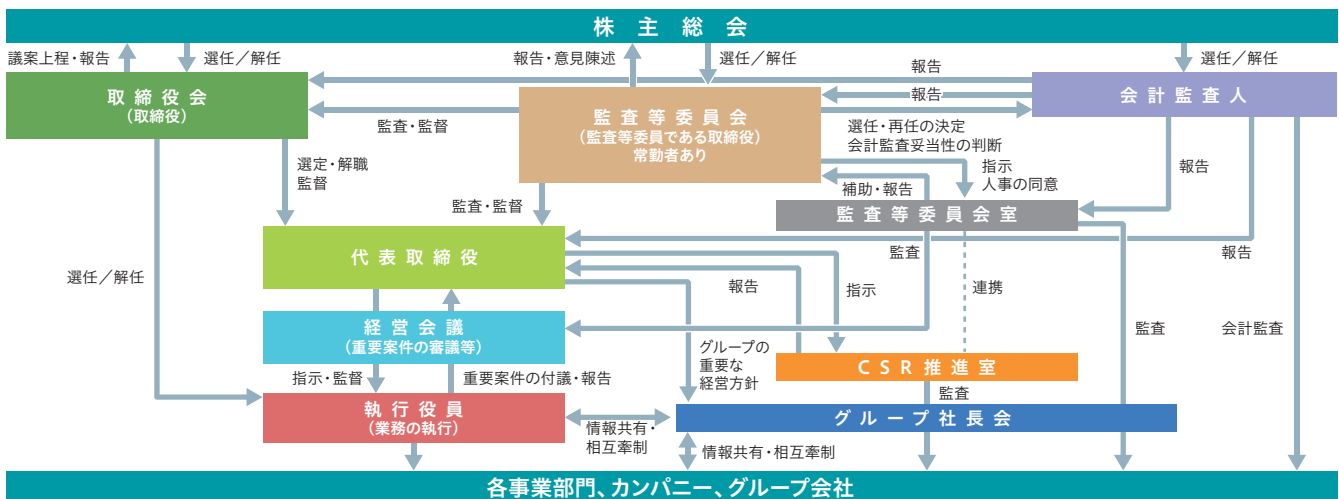
以上の体制により、経営の機動性や効率性を確保しながら、十分な統制機能を働かせることが可能であると判断しています。

内部統制について

当社は、適法かつ効率的な経営の実現のため、「内部統制システム構築の基本方針」を取締役会で決議し、その体制の整備・運用を行っています。業務の有効性・効率性、財務報告の信頼性、コンプライアンス(法令順守)、資産の保全という内部統制の4つの目的を達成するため、「企業活動に関する基本指針・行動基準」をはじめとした社内規程を整備し、その周知徹底に努めています。財務報告に係る内部統制については、当社および当社グループの財務計算に関する書類、その他の情報の適正性を確保するため、「財務報告に係る内部統制の基本方針」を定め、運用しています。

また、内部統制の整備・運用状況については、監査の実効性を高めるため、監査法人と監査等委員会および内部監査機能を担う社長直轄のCSR推進室が密に連携しています。監査法人からは会計監査・内部統制監査の結果報告を定期的に受けています。監査結果は随時、被監査部署にフィードバックされ、指摘の内容に応じて改善しています。

● コーポレート・ガバナンス体制



コンプライアンスについて

コンプライアンスのためにとるべき行動規範を「企業活動に関する基本指針・行動基準」に定め、内部統制担当役員がその周知徹底を担当しています。

法令・ルールへの順守状況については、CSR推進室が各部署に対し内部監査を実施し、その結果は、取締役会で報告しています。2018年度の監査では、いずれの部署においても重要な指摘事項はありませんでした。

当社グループでは、組織的・個人的行為にかかわらず、不正・違法・反倫理行為を速やかに認識し、危機を回避することを目的に、内部通報制度を設けています。当社グループの役員、従業員のみならず、契約社員、派遣社員も利用でき、通報は社内イントラネットや投書、専用の電話で受け付けています。

内部通報制度の運用にあたっては規程を整備し、通報者に対し、通報などを理由にした不利益な取扱いを行わないことを明確に定めています。

契約基礎に関する勉強会を開催

2019年3月、関西本社および東京本社において、色川法律事務所弁護士 高橋直子氏による「契約基礎に関する勉強会」を開催しました。ビジネスに不可欠な契約に関する初の勉強会ということで、当社をはじめグループ各社の社員も多く参加し、熱心に聴講しました。

勉強会では、契約書の意義や作成時のポイント、トラブル事例など具体的な例を挙げてわかりやすくご講演いただきました。

今後も継続的に法律知識に関する勉強会を実施していく予定です。



勉強会の様子

リスクマネジメントについて

全社的、組織横断的なリスクについてはコーポレート本部管掌役員が、また、各部門の業務執行に係るリスクについては担当部門長が、監視・対応にあたっています。

特に経営に重大な影響を及ぼすおそれのあるリスクについては、経営会議で管理責任者を定め、リスク管理の進捗状況を経営会議や取締役会に適宜報告しています。

巨大災害リスクに関する講演会

2018年8月、関西本社において、兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 紅谷昇平准教授をお招きし、「巨大災害のリスクに備える」と題した社内講演会を開催しました。

地震に関する一般的な誤解や勘違いの事例紹介に始まり、災害対応の難しさ、そこから得られた教訓などを、豊富なフィールドワークと研究の成果から、幅広くかつ系統的に解説していただきました。

2018年は地震・台風などの自然災害が多く発生し、社内でもこれまで以上に災害に対する関心が高まったこともあり、当社役員のみならず、関西本社所在地周辺の事業所およびグループ各社の社員も多く参加し、熱心に聴講しました。

いつまた起こるかわからない災害に備えて、その対策に活かしていきたいと考えています。



災害対策 講演会の様子



執行役員
コーポレート本部 本部長

井料田 保二

ネットワーク

本社

関西本社

〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6000 FAX. 06-4300-6387

東京本社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル20階
TEL. 03-3349-7200 FAX. 03-3348-2349

ガラスびんカンパニー

〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6000 FAX. 06-4300-6387

- 東部営業部 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル20階
TEL. 03-3349-7200 FAX. 03-3348-2349
- 西部営業部 〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6150 FAX. 06-4300-6387
- 西日本営業所 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前4-4-21 グリーンビル7階
TEL. 092-431-6836 FAX. 092-461-0806
- 東京工場 〒252-0146 神奈川県相模原市緑区大山町3-45
TEL. 042-771-5111 FAX. 042-773-7742
- 埼玉工場 〒360-8558 埼玉県熊谷市御稜威ヶ原下林611-10
TEL. 048-533-7081 FAX. 048-533-7896
- 播磨工場 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島5
TEL. 079-435-2051 FAX. 079-435-4061

プラスチックカンパニー

〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6300 FAX. 06-4300-6388

- 営業部 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル20階
TEL. 03-3349-7206 FAX. 03-3348-2349
〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6315 FAX. 06-4300-6388
- 関西プラント 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島43-2
TEL. 079-435-5801 FAX. 079-435-5758
- 宇都宮プラント 〒321-3231 栃木県宇都宮市清原工業団地18-1
TEL. 028-667-8631 FAX. 028-667-8641

ニューガラスカンパニー

〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町111
TEL. 06-6411-3431 FAX. 06-6411-3481

- 尼崎プラント 〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町111
TEL. 06-6411-3431 FAX. 06-6411-3481
- 鳴尾浜プラント 〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜2-1-18
TEL. 0798-40-4456 FAX. 0798-40-9144

エンジニアリングカンパニー

〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町111
TEL. 06-6411-7071 FAX. 06-6411-7075

ガラス工房やまむら

〒662-0921 兵庫県西宮市用海町4-28 日本盛 酒蔵通り煉瓦館内
TEL. 0798-32-2556 FAX. 0798-32-2557

国内関係会社

- 山村倉庫株式会社 〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6400 FAX. 06-4300-6410
- 山村ロジスティクス株式会社 〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6430 FAX. 06-4300-6412
- 星硝株式会社 〒105-0011 東京都港区芝公園1-1-11 興和芝公園ビル6階
TEL. 03-5401-1741 FAX. 03-5401-1699
- 山村フォトニクス株式会社 〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4207
TEL. 045-930-1811 FAX. 045-930-1814
- 株式会社山村製壜所 〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜2-1-18
TEL. 0798-43-1301 FAX. 0798-43-1309
- 日硝精機株式会社 〒242-0018 神奈川県大和市深見西4-1-5
TEL. 046-261-9656 FAX. 046-263-1036
- 株式会社ワイティエフ 〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町111
TEL. 06-6411-3160 FAX. 06-6411-3163

海外関係会社

- 秦皇島方圓包装玻璃有限公司(中国)
TEL. +86-335-6085088(代表) FAX. +86-335-6085612
- 展誠(蘇州)塑料製品有限公司(中国)
TEL. +86-512-8160-2158(代表) FAX. +86-512-5357-2665
- 山村ウタマ・インドプラス(インドネシア)
TEL. +62-21-893-6578(代表) FAX. +62-21-893-4636
- 山硝(上海)商貿有限公司(中国)
TEL. +86-21-5208-1258(代表) FAX. +86-21-3208-0005
- YGQ カリフォルニア(米国)
TEL. +1-707-363-5036(代表)
- 山村インターナショナル・タイランド(タイ)
TEL. +66-2656-8700(代表) FAX. +66-2656-8776
- 台湾山村光學股份有限公司(台湾)
TEL. +88-63-5970-1072(代表) FAX. +88-63-5970-233
- サンミゲル山村アジア(フィリピン)
TEL. +63-2-632-2650(代表) FAX. +63-2-632-3967
- サンミゲル山村パッケージング(フィリピン) /
サンミゲル山村パッケージング・インターナショナル(英領バージン諸島)
TEL. +63-2-702-4200(代表) FAX. +63-2-637-6368 / 69, or +63-2-687-7075

印刷・製造には、これらの配慮をしています。



環境にやさしい『植物油インキ』を
使用しています。

この製品は、適切に管理された
FSC®認証林からの原材料
および再生資源から作られています。

有害廃液を排出しない
水なし印刷方式を
採用しています。